

越戸川と子供達

和光自然環境を守る会 会長 峯岸正雄

越戸川での市民活動を通じて今年体験した嬉しい出来事2件を皆様に紹介したい。

その1. 越戸川の水辺再生工事を契機に数年前より近隣の新倉、北原両小学校5年生の総合学習が越戸川で行われるようになった。更に昨年より学習効果を高める目的で参加した子供達が総合学習をテーマとした絵の作成を始めた。今年は両校5年生から合計200点を超える絵が寄せられ、優秀作の選考のため新倉北地域センターの2部屋続きの和室に並べられた絵の様は正に壮観であった。絵の主題は人物（自分自身またはグループ）、魚等の川の生き物、川の景色、川の流れ等と様々で中にはお日様もあり、一枚一枚の絵に子供の個性と川への思いが滲み出て大変興味深かった。優秀作と入賞作併せて27作品が10月15日開催の越戸川まつりで展示され、ご来場の市民の皆様にも大変好評であった。総合学習を機に絵の作成のみならず川を様々な切り口で自主的に学ぶ子供達が増え嬉しい限りである。

その2. 今春、若い川仲間3人が揃って各自の第一志望の高等学校に進学した。彼らの内2人は小学校5年生の時から会の活動に参加、通学先の先生方や本人のご家族とも連絡を取って活動を見守ってきた。当初は何時まで続くかと懸念していたが、その後一人が加わり仲間3人で熱心に活動を続け、心身の成長と相俟って今や一人前の戦力として川活動を継続している。行く行くは我々シニアに代わって川活動をリードしてくれるとのこと嬉しくまた頼もしい限りである。幼少時に豊かな自然体験を有して育つと、成人して後社会への適応能力が高いことが知られている。子供達が和光市の豊かな自然と存分に接して育ち、将来一人前の社会人として世界に羽ばたいて欲しい。

県営和光樹林公園の今

高橋勝緒

樹林公園の「芝生広場」は広々とし、一角には遊具も整い、休日などはのどかににぎわっています。しかし、中央の「樹林地」や西側の「多目的広場」を訪れると驚くような枯れ木の森です。数年前からヤマザクラの枯れ死が目立ち始め、昨年頃からそれが急激に進んでしまいました。

今年度、公園の指定管理者が、和光市から「和光樹林公園パートナーズ」に代わり、県の予算も加え、枯れ木の伐採や除去が精力的に進められています。これは倒木や枯れ枝の落下による事故を防ぐ上で極めて重要な作業です。これまでに重大事故が起こらなかったことは「幸運」としか言いようがない状態でした。安全確保や伐採作業のため樹林地の大部分が「立入禁止」になっていますが、しばらくはやむを得ないことでしょう。

以前からの観察では、目視でヤマザクラの8割以上（一部はオオシマザクラやソメイヨシノ）が枯れ死しています。この異常な状態は、土地の悪さや猛暑、サクラの株立ちが顕著なこと、何らかの病気などが複合的に影響したためと思います。整備とともに専門家による原因究明が不可欠です。

和光・緑と湧き水の会では、多目的広場の一角でコナラやクヌギの幼樹を育てる自然な植生の森づくりを進めて来ました。十数年前の幼樹が、今では幹回り30cm以上、樹高15mほどに育ち、50m四方ほどが立派な「ドングリの森」になっています。ここでは樹木の枯れ死は起こっていません。数年前に植えたマツの幼樹も元気な若木に育っています。現在の異常な状態の整備の後には、その跡地に芽生える多様な幼樹を保護し、それを育てる森づくりも望ましいと思います。単に立派な樹木を植樹するだけでなく、自然の力を利用する森の再生も見たいものです。和光市の重要な「自然環境」として、県や指定管理者と共に、市民や市が関与・協力する「樹林」公園づくりを望んでいます。

“和光の宝・湧水緑地”を残す活動

NPO 法人和光・緑と湧き水の会 高橋絹世

都市化が進む和光市は、住宅都市としての機能を保つ自然環境の維持が重要な課題です。和光の自然環境には特徴的な湧水緑地が残っています。特に白子地域には、緑地や湧水地が連なって白子湧水群を形成しています。

最も水量の多い“富沢湧水”がこの度“白子宿特別緑地保全地区”の指定を受け、将来の公有地化にも繋がることでしょう。ここには、湧き水の仕組みがわかる地層があり、湧き水豊富な白子宿として湧水タンクや湧水道など生活に利用した文化が残されています。湧き水の会では、地権者の方の湧水に対する思いとともに大切に保全し次の世代に引き継いでいこうと活動しています。

白子には、鎮守の森として地域の歴史に根ざした湧水池のある“熊野神社”が、また、斜面林の美しい“大坂ふれあいの森”が和光市の借り上げ地として、そして、富沢湧水は都市緑地法に基づく“特別緑地保全地”となり、この3ヶ所が一体となって維持されています。

地元の方々の神社を中心とした伝統と地権者の方の理解が結びつき、特徴的な自然が、都市化する和光市でかけがえの無い和光の宝として、次の世代に大切に残していきたいものです。



市民会議 100 回記念の会報第 10 号(2014 年初夏号)を読み返しました。「環」とはいいネーミングですね。「長いものを曲げて円くしたもの」「円い形のもの」。月1回の市民会議に出席し市の環境基本計画の討議に参画し、それとは別に NPO 法人和光・緑と湧き水の会でお手伝いをさせて頂き 2 年が経過しました。

「変わるものは正しいこと、変わらないものは美しいもの」と、学生時代に聞いたことが脳裏に刻まれています。世の中の変化は凄まじいものがあります。インターネットの技術もあって、世界中の事件があつという間に個人にまで届きます。知らなくても良いことまでニュースが流れてきますので、心が動かされ不安をかき立てられたりします。アメリカの新大統領、中国、ロシアとの関係、お隣の韓国がどうなるのかなどなど。そこで、「変ること、変化することは正しいこと」と思いたいものです。

毎日毎日を暮らす、身近な環境が大事で、「世の中の変化は正しい方向に向かっているのだ」と思い定めて、まずは、自分の生活している周りの環境を安全・安心なものに保つ事が肝要でしょう。その為に、「かけがえのない、変化しない、美しい和光の自然」を守ることに注力し、後生の子供・孫の暮らしを思いながら、共同・協同・協働の精神で、和光の緑を守り、保全する活動をして行きたいと思っています。円い環が光る和光で。

11月の主な出来事

渡邊 康三

●2016年11月4日 パリ協定発効

京都議定書に代わる、地球温暖化対策の新たな国際枠組みである。73ヶ国とEUが批准した為、脱炭素社会の実現を目指す。

しかし日本はこの時点では批准していない。7日から始まる(COP22)の会議では議決権を持たない。誠に残念である。しかも11月17日は、地球温暖化対策の前進を妨げている国に贈る「化石賞」に日本を選んだ。CO₂の排出の多い石炭に依存した石炭

火力発電技術を海外輸出する矛盾した行動が理由とのこと。脱炭素の為に日頃一生懸命に活動している市民に国はどう説明するのでしょうか？ 11月7日現在批准国は100ヶ国地域に達した。

●2016年11月9日 トランプ・メディア

アメリカ大統領選でヒラリー・クリントン氏を大接戦の末破り、2017年1月20日に、45代大統領の就任式に臨む。70歳での就任は史上最高。メディアは日本、アメリカともこの結果は完敗で終了した。

●2016年11月14日 スーパームーン

68年ぶり、満月が大きく明るく見える。残念ながら一部の地域でしか観測できず、13日小望月(こもちづき)、15日十六夜(いざよい)は観測できた。次は18年後。

●2016年11月24日 雪

54年ぶりに関東平野に積雪があった。

●2016年11月26日 フィデル・カストロ キューバ前議長90歳で死去。キューバ革命の指導者で強いカリスマ性で知られた。

人類の未来を切り開く「パリ協定」 東 亮太

(1) パリ協定で決めた温暖化対策、11月4日発効

- 気温上昇を2度よりかなり低く抑え、1.5度未満に抑えるよう努力
- 今世紀後半に温室効果ガスの排出と吸収を均衡させる
- 各国は温室効果ガスの制限目標を自主的に作って報告 達成義務はないが、達成に向けた国内対策をつくることは義務。
- 目標は5年ごとに更新し、前より下げない。
- 途上国への資金支援を先進国に義務づけ。資金力のある途上国は自発的に支援
- 温暖化の被害を軽くする対策をガス削減策と並ぶ柱に

(2) パリ協定で目指す社会

- 住まい、ビル 断熱性を向上し、省エネ機器を導入。太陽光パネルやヒートポンプ給湯で排出ほぼゼロに電気自動車や蓄電池に電気をためる。
- 交通 乗用車は燃料電池車か電気自動車が主流。化石燃料を使うのは貨物車やバスの一部

●産業 鉄鋼やセメント工場にCO2の回収・貯蓄(CCS)を設置 バイオマス燃料や高温の産業用ヒートポンプを導入

●地域 再生エネルギー自給。余った分は都市へ。市街地はコンパクトに

(3) 日本国内の取組状況

●国の削減目標2020年度 05年度比3.8%減以上
2030年度 13年度比 26%減

●埼玉県削減対策 既存の街区を省エネや再生エネを活用しエコタウン化する

●和光市の削減対策

太陽光発電システム普及(設置台数)

平成28年6月時点 858件

平成32年度目標 1270件

◆参考資料

「気候変動長期戦力懇談会」資料、朝日新聞。2016年8月29日。香取啓介氏

「緑の基金」をつくろう 友國洋

斜面林や湧水地など緑地保全の切り札は公有地化である。問題は資金であるが、「緑の基金」は、これまでの議論の過程で、和光市まちづくり寄付条例との調整が必要だということを知ってきた。

現在、和光市まちづくり寄付条例改正が検討中だが、寄付の受け皿として「緑の基金」を設立してもらいたい。「緑の基金」には積立て目標を設定し、用途は土地の公有化に限る。トトロの森は1万円×6千人の寄付によって立ち上がり、所沢市緑地、埼玉県トラスト地へと運動が広がったことを想起したい。寄付に応じて一般会計からも基金に積み立てることによって、運動にはずみがつくことが期待できる。

自然エネルギーが選べる時代
温暖化防止!和光の会 中川善樹

和光市には太陽光発電設置が戸建や集合住宅そして事業者と公共施設の屋根に 859 ヶ所から和光産の電気が年間約4000 メガワットアワーの電気が創られています。街中に分散していますが立派なメガソーラー地域発電所です。

さらに、今年 4 月から電力自由化がはじまり一般家庭でも電力会社を選べるようになりました。化石燃料依存の電力会社では地球温暖化はますます進行してしまいます。だからといって3.11後には原発を選ぶ気にはなれません。

こんな中で気候変動はすでにあなたの暮らしに迫っています。地球規模で和光市をみたとき地理的に北緯 35.78 度はこの緯度の二酸化炭素(CO2)濃度は 400ppm を超えました。あなたは身の周りの変化を気づいていますか？

地球温暖化対策では、二酸化炭素(CO2)排出の少ない自然エネルギー(太陽光・風力・小水力・地熱など)を重視する電力会社を選ぶことが重要になります。現在までに電力自由化で電力切替え(スイッチング)をした件数は東電管内で 100 万件を超えています。CO2 排出量の少ない自然エネルギーを選ぶことが求められています。あなたの電力切替え(スイッチング)が今、期待されています！

地球温暖化ってなあに？ 松田 広行

11月24日、関東各地で初雪が降った。東京都心では、1962年以来54年ぶりの11月の降雪とのこと。なんでも、東京での初雪は平年(1月3日)よりも40日早いと言う。あれ、いま温暖化が進行しているのではないの。11月に雪が積もるって、温暖化じゃないの？

温暖化って、次のように言われている。

人間の活動が活発になるにつれて「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象だ、と。大気中に微量に含まれる二酸化炭素(CO2)、メタン(CH4)、亜

酸化窒素(N2O)、フロン、オゾンなどが、温室効果ガスと言われる。

温暖化対策として、気候変動枠組条約締約国会議(Conference of the Parties、COP)が設けられ、2016年11月に、マラケシュ(モロッコ)に74カ国参加して、COP22 および及び関連会合が開催されている。

気象庁のホームページに「人為起源の温室効果ガスの総排出量に占めるガスの割合」が載っている。それによると、① CO2:76%(化石燃料由来 65.2%、森林減少や土地利用変化 10.8%) ② CH4:15.8% ③ N2O:6.2% ④フロン等:2.0% とある。

温暖化の証として、巷間流布されている「私たちの住んでいる地球の平均気温は、近年、どんどん高くなっている」と言うこのフレーズは本当かと、思う人もいて不思議でない。

CO2 濃度だけでは、予測が合わないと言う、報告(CRIEPI News273 引用)がある。

それは、産業革命以後、大気中の CO2 は 30%増えているに、CO2 を考慮した気温予測は、観測された気温と合わないと言う。CO2 の増加分だけで気温上昇を計算すると緯度の高いところで気温上昇が著しいと言う。ところが過去百年気温からは、南極では気温上昇があるものの、北極付近では気温が低下している、とか。

また、化石燃料の燃焼で発生した亜硫酸ガス(SO2)は、大気中で硫酸エアロゾルと言う微粒子になり、太陽の光を反射させたり、雲を発生させたりして、地球を冷やす効果があるそうだ。

SO2 濃度による冷却効果を計算すると、日射量を1%減らし、地球全体を約1℃冷やしていることが分かり、1995年版の「国連気候変動に関政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change、IPCC)の報告で21世紀末の平均気温の予測値を0.5℃下げることになったと言う(第2次報告書(1995年) Second Assessment Report: Climate Change 1995 (SAR))。

硫酸エアロゾルのうち、粒径 2.5μm 以下を一般にPM2.5と言うが、地球の冷却効果と健康影響や大気汚染の被害を天秤に掛けたら……。解りません。機会があったら、この続きを書きたい。